

茨城県立石岡第二高等学校
渡邊 信人／佐々木 優子

●協働学習 ■同時進行型

実践タイトル 電子会議室で相互批評しながら作品を制作

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

PC
その他（プロジェクター、スクリーン）

・口頭で説明するよりも、静止画や動画といったWeb教材を大きく提示することで、より理解が深まる。

その他（電子会議室システム）
Web教材（塩釜市HP）

・電子会議室に書き込むことで、インターネットを通じて相互に作品鑑賞ができ、質を高めあうことができる。

参考にしてほしいポイント

- ・東日本大震災における宮城県塩釜市の津波被害の写真や映像などWeb教材を提示することで、被害状況を具体的に理解し、本活動の意義を知り、創作意欲の喚起につなげる。
- ・電子会議室を活用することで、一方通行ではなくインタラクティブな作品鑑賞が可能になり、リアルタイムで作品の評価や感想を聞き、即時に修正することが可能になり、より深く考察し、作品の完成度や質を高めることができる。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 10	・制作を通じた学習目標を知る。 ・プロジェクターとスクリーンを活用して、宮城県塩釜市について簡単に紹介する自作のPPT教材を提示、位置や歴史などを学習する。	・自作教材「塩釜市について知ろう」(プレゼンテーションソフトウェア)(写真1)
展開 10 40	・塩釜市における東日本大震災による津波被害の様子を写真や映像で見る。 ・被災した方々のご苦労や自分ができることについて、じっくりとかみしめて考える。 ・茨城県教育情報ネットワーク(IEIネット)にログインし、電子会議室の「被災地応援ビデオレター作成」スレッドに入室させる。 ・塩釜高校の生徒や先生に宛てて、応援メッセージを考えて、打ち込む。 ・きちんと記名してアップさせる。	・インターネット上に掲載されている、津波被害状況の写真や映像などWeb教材(写真2) ・茨城県教育情報ネットワークに用意されている電子会議室システム
まとめ 40 50	・相互に鑑賞し、考察を深める。必要があれば加筆・修正する。 ・ログアウト、シャットダウンをして終了。	・生徒が電子会議室に書き込んだメッセージ作品(写真3)



写真1: プレゼンテーションソフトウェア資料を見ながら塩釜市について知る



写真2: Web上にある被害状況の写真や映像を見る



写真3: 電子会議室で相互鑑賞しながらメッセージを書く

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・写真や映像を見ることで、まるで自分が津波を体験したかのような気分になり、塩釜市の被災した方々の気持ちが、少し分かったような気がした。
- ・電子会議室にメッセージを書き込むため、みんな頭の中で色々と考えていることが、きちんと形に表されて分かり、話し合うときよりもお互い理解が深まった。
- ・電子会議室に書き込まれた友人の考えを読んでいると、影響を受けて、より深く塩釜市の方々の悲しみや苦労を考えることができた。何かお手伝いや、役に立つことがしたいという気持ちが高まった。

活用効果

評価の観点	・書く能力	具体的内容	・被災地への応援メッセージを書くのに、写真や映像を提示し具体的に理解し、電子会議室で作品をリアルタイムに相互鑑賞することで、活動への関心や意欲が格段に向上した。
-------	-------	-------	--

実践の手応え

- ・Web上の写真や映像を、プロジェクターとスクリーンを活用して提示することで、疑似体験をさせることができ、震災被害について、臨場感あふれる深い理解ができた。
- ・電子会議室でメッセージ作品を共有することで、相互にコミュニケーションを図りながら制作活動をすることが可能になり、考察を深め、作品の質を高めることができた。